

近隣の社会経済状態と24時間尿中ナトリウムおよびカリウム排泄量との関連： 18～22歳の女子学生1032人の横断研究

村上健太郎¹、佐々木敏¹、高橋佳子²、上西一弘³、第1回・第2回詳細調査研究グループ
(¹東京大学、²和洋女子大学、³女子栄養大学)

私たちの生活は環境によって変化しうるものである。居住地域の特性は、個人個人の特性が与える影響とは別に、食習慣といった生活習慣に無視できない影響を与えるかもしれません。実際、いくつかの研究において、社会経済的に不利な地域への居住と望ましくない食事摂取とのあいだの関連が示されています。しかし、これらの研究はすべて、ひとつの例外を除いて、自己申告の食事のデータをもとにしたものであり、客観的な食事摂取量の生体指標をもとにした科学的知見はとても少ないのが現状です。そこで、若年日本人女性のデータを用いて、近隣の社会経済状態と、摂取ナトリウムおよびカリウムの確立された生体指標である24時間尿中ナトリウムおよびカリウム排泄量との関係を調べてみました。

調査に協力してもらったのは、全国293市区町村に居住する、18～22歳の女子大学生1032人です。調査は2006年および2007年に実施されました。24時間尿中ナトリウムおよびカリウム排泄量を推定するために、1日のうちに出した尿をすべて集めてもらいました。

この研究では、自宅が存在する市区町村を近隣 (neighborhood) と定義しました。おもに2005年国勢調査のデータをもとに、近隣の社会経済状態を把握するための尺度を開発しました。今回用いた近隣の特性は、失業者割合、平均住居面積、被生活保護世帯割合、大学・短大卒業者割合、平均収入、持ち家世帯割合、および単身高齢独居世帯割合の7つです。これらの特性のzスコアの合計得点を近隣の社会経済状態としました。得点が高いほど、その近隣は社会経済的に不利な特徴を持った地域である、ということを示します。

図1に示すように、近隣の社会経済状態と24時間尿中ナトリウムおよびカリウム排泄量とのあいだには明確な関連は観察されませんでした。しかし、図2に示すように、社会経済的に不利な地域に住んでいるひとほど24時間尿中ナトリウム・カリウム比が高い、という結果が得られました。

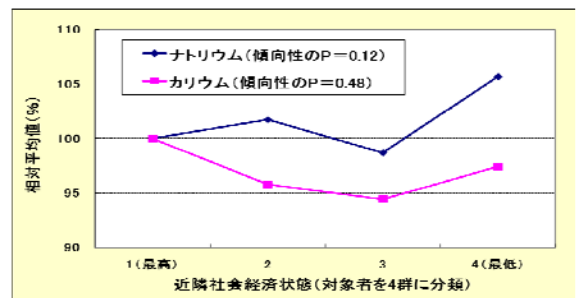
ナトリウムが多く、カリウムが少ない、すなわち、ナトリウム・カリウム比が高い食事は、高血圧や循環器疾患のリスクを上昇させることがわかっています。今回の研究は、社会経済的に不利な地域への居

住は望ましくない食事と関連しているかもしれない、ということを示唆する、食事摂取量の生態指標を用いた貴重な研究であるといえます。

しかし、この分野における科学的知見は（特に日本において）まだまだ不足しているので、今後の研究が期待されます。

出典：Murakami K, Sasaki S, Takahashi Y, Uenishi K, the Japan Dietetic Students' Study for Nutrition and Biomarkers Group. Neighborhood socioeconomic disadvantage is associated with higher ratio of 24-hour urinary sodium to potassium in young Japanese women. J Am Diet Assoc (accepted 10 February 2009).

図1 近隣の社会経済状態と24時間尿中ナトリウムおよびカリウム排泄量との関連：
18～22歳の女子学生1032人の横断研究

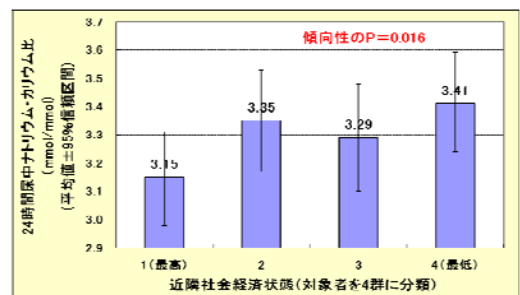


近隣の社会経済状態の評価には、自宅が存在する市区町村のデータ (失業者割合、平均住居面積、被生活保護世帯割合、大学・短大卒業者割合、平均収入、持ち家世帯割合、単身高齢独居世帯割合) を用いた。

調査年、調査施設、および居住形態で調整済み。

Murakami et al. J Am Diet Assoc (in press).

図2 近隣の社会経済状態と24時間尿中ナトリウム・カリウム比との関連：
18～22歳の女子学生1032人の横断研究



近隣の社会経済状態の評価には、自宅が存在する市区町村のデータ (失業者割合、平均住居面積、被生活保護世帯割合、大学・短大卒業者割合、平均収入、持ち家世帯割合、単身高齢独居世帯割合) を用いた。

調査年、調査施設、および居住形態で調整済み。

Murakami et al. J Am Diet Assoc (in press).